

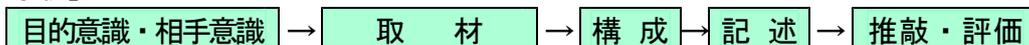
書くことを中心とした指導過程

(京の国語力向上のための国語科カリキュラム改善資料「書くこと」を中心にしてP. 20抜粋)

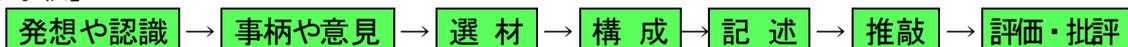
1 文章作成過程（文章を書く手順）に即して指導過程を構成する

学習指導要領では、「取材」「記述」などの項目を立てて「書くこと」の指導内容が示されている。

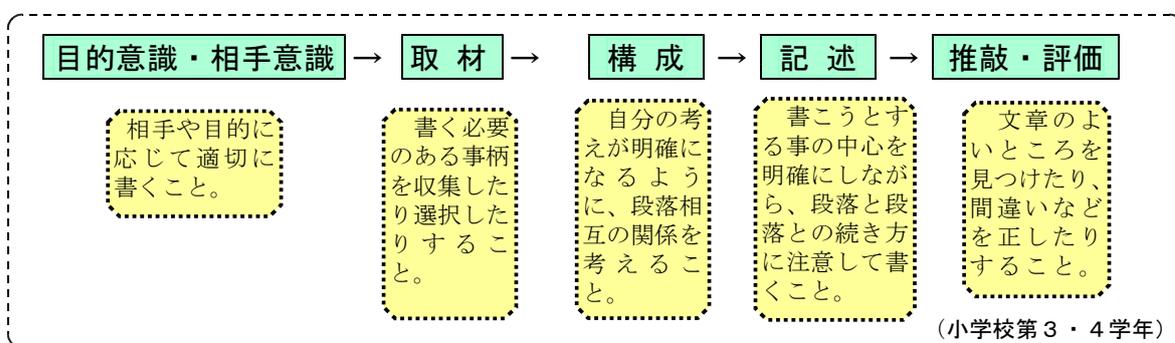
【小学校】



【中学校】



これらの項目を順に矢印でつないでみると、実際に文章を書いていく文章の作成過程が明らかになってくる。また、それぞれの学年の指導内容も、下の例のように文章作成過程を骨格として示されている。



つまり、学習指導要領では、児童生徒が実際に文章を書いていく姿に寄り添って目標や内容が設定されているということである。

したがって、「書くこと」の指導においては、このような文章作成過程に即して学習指導計画を構成する必要がある。そのことによって児童生徒は、文章を作成していく方法を実際の手順に即して具体的に学ぶことができ、それぞれの過程ごとに必要な力を確実に身に付けていくことができる。

- ☆ どの学年でも、目的意識・相手意識 から 評価・批評に至る文章の作成過程を大切に、一つ一つを指導過程として確実に設定する。
- ☆ 指導過程ごとに目標と指導内容を明確にし、具体的な指導を行う。

2 重点を置く文章作成過程を明確にする

目的意識・相手意識 から 評価・批評 に至る「書くこと」の指導過程の骨格は、どの学年でも共通である。しかし、指導過程の一つ一つでどのような力を身に付けさせるのかについては、学年ごとにその目標と指導内容を明確にする必要がある。また、それに加えて、小学校第3・4学年では「構成する力」、中学校第2・3学年では「評価・批評する力」など、その学年で特に伸ばすべき力を焦点化することも重要である。そのことによって、すべての文章作成過程を大切にしつつ、その一つに重点を置いた指導計画を立てることができ、効果的で効率的な指導を進めることができる。文章作成過程について、「どの学年で、どの過程に重点を置くべきか。」先に示した文章様式も観点に入れて整理したものを一覧表と各学年ごとに分けて提示しているので参考にされたい。

「活用」の力を育てる評価問題へ